

平成27年度博物館施設評価シート

施設名 嵐山史跡の博物館

1. 全館共通項目  
(1) 数値による評価

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%以上~100%未満)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	155	人	A	165人×94%	
				158	人		開館日数308日 入館者数48,517人	
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	45	人	B	50人×91%	
				40	人		開館日数308日 観覧者数12,200人	
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	223	件	C	269件×83%	
				120	件			
4	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	376,532	件	C	324,597×116%	
				88,767	件		更新回数41回	
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	103	件	B	97件×106%	
				90	件		掲載件数27件	
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	2,274,000	円	B	当該年度予算計上額	
				1,957,927	円		観覧料586,340円+その他1,371,587円	

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	—	件		別紙チェックリストによる	
				—	件			
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	17	件	A	別紙チェックリストによる	
				17	件			
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				8	件			
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる	
				13	件			
9	施設の活用	施設の利活用	施設の利活用状況	6	件	A	別紙チェックリストによる	
				6	件			

2. 館別独自項目  
(1) 数値目標による評価

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	企画展	入館者	企画展の入場者数	7,500	人	A	昨年度実績(7,496人)	
				11,271	人			
2	学校利用	団体利用	学校団体の博物館利用校数	60	校	B	昨年度実績(60校)	
				54	校			
3	ボランティア	ボランティア活動	活動参加延べ人数	1,000	人	B	昨年度実績(957人)	
				940	人			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	1,709	点	A	資料点検計画による(1,709点:歴史資料540、考古資料1,169)	
				1,709	点			
5	満足度	常置アンケート	アンケートでの常設展満足度	90	%	B	26年度満足度80.8%	
				85.1	%			
6	満足度	講座等アンケート	アンケートでの講座等受講者の満足度	95	%	B	26年度満足度95%	
				90	%			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成度			特記事項	
1	魅力ある展示	企画展事業の実施	企画展の実施状況	6	件	A	別紙チェックリストによる	
				6	件			
2	市町村等との連携	市町村等と連携した事業の実施	連携事業の実施状況	5	件	A	別紙チェックリストによる	
				5	件			
3	史跡公園の保存と活用	史跡の保存・活用の実施	史跡の保存・活用に関する対策・事業の実施状況	3	件	A	別紙チェックリストによる	
				3	件			
4	各種事業の更新・充実化	事業企画の更新の実施	事業企画更新の実施状況	5	件	A	別紙チェックリストによる	
				5	件			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重点事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展「中世黎明－時代を変えた武士と民衆－」(12/5～2/21)</li> <li>・歴史講座「古代から中世の関東」全4回(7/10,9/18,10/23,11/27)</li> <li>・シンポジウム「検証！古代から中世へ－東国の視点から－」(1/31)</li> </ul> </li> <li>●新たな取り組み                             <ul style="list-style-type: none"> <li>重点事業について「中世の始まりを考える」を統一テーマとして実施し、年度当初からチラシ配布やHPでの情報発信など広報活動を展開した。</li> </ul> </li> </ul>
事業の成果	<p>6月に配布した統一テーマのチラシ配布や、タイムリーな情報発信により、当館の主要事業での利用者、参加者数が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展 11,271人(昨年度7,496人)</li> <li>・企画展関連講演会 326人(昨年度299人)</li> <li>・歴史講座 1,115人(昨年度1,055人)</li> <li>・シンポジウム 530人(昨年度492人)</li> </ul>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	6人 (4人)	総予算額 (人件費を除く)	17419000円	職員一人あたりの県民人口	120.7万人
収蔵資料総点数	1,709点	事業経費 (上記の内数)	5,934,000円	利用者一人あたりのコスト (平成26年度)	351円
平成26年度 収集資料点数	0点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	2,274,000円 (985,000円)	県民人口に対する利用者割合 (平成26年度)	0.7%

※平成27年4月1日現在の埼玉県推計人口は7,242,442人である。

平成27年度 博物館施設 総合評価

施設名 嵐山史跡の博物館

		A評価	B評価	C評価
全館共通	数値目標による評価	1	3	2
	チェックリストによる評価	8	0	0
各館独自	数値目標による評価	2	4	0
	チェックリストによる評価	4	0	0

自己評価総括

評価	<p>・当館の基幹事業である「企画展」「歴史講座」「シンポジウム」の充実を図るため、「中世の始まりを考える」という統一テーマを設定し、年度当初にチラシを配布した。さらに、各事業の開催時期に合わせて個別のチラシを作成したことがこれらの事業への参加者数の増加につながったと考えられる。</p> <p>特に企画展関連講演会では、「彩の国だより」に掲載されなかったにも関わらず、昨年度実績を上回ったことは、ターゲットを絞って広報を行った成果であると言える。</p> <p>・体験学習など学校団体の利用については、横ばい傾向であるが、遠方の学校の遠足、近隣学校の社会科見学にともない利用するというスタイルが定着しつつある。</p>
課題	<p>・展示室への入館者の安定的な確保。</p> <p>・学校の団体利用を増やすための、広報の拡大、新しいメニューの開発、学校を受け入れるための体制の充実。</p> <p>・国指定史跡の維持管理と保存整備活用</p>
対応の方向	<p>・入館者、利用者動向の把握と、それに基づく広報活動の実施。</p> <p>・入館者増につながるような魅力ある展示内容への見直し。</p> <p>・学校が望む体験学習の内容の把握と新しいメニューの開発。</p> <p>・ボランティアを含めた体制の充実とデリバリーなどの活用を図る。</p> <p>・保存整備活用計画の策定と、それに基づく計画的な保存・整備・活用の実施を目指す。</p>

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各館協議会委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口減少時代に大幅な入館者増は見込めないので、評価項目について事業ごとに事業効果の上がる目標値を設定すべきである。</li> <li>・ 嵐山の普及事業での利用者数はずば抜けており、数値化するなら職員一人当たりでの数値で評価すべきである。</li> <li>・ 「利用状況」のインターネットのアクセス件数を増やすためには、例えば、さきたまは古墳辞典、嵐山は城館跡辞典を起ち上げ、年々充実させてその更新件数もカウントしてはどうか。また、コンテンツの作成にはボランティアの参加を考えてはどうか。</li> <li>・ 「広聴・広報」について、さきたまの戦略的広報が効果があったなら、両館同一歩調で一斉メールなどによるアピールを積極的にやるべきである。</li> <li>・ 史跡「菅谷館跡」は過去の発掘調査の情報しかなく、現状では新しい情報が生まれていない。「比企城館跡群」として史跡の範囲と内容が広がったので、活用方法や新しい情報の創造方法について見直しをすることが望ましい。</li> <li>・ 「ボランティア」の活動について、ボランティアの参加意識を高めることと、スキルアップを図ることが必要である。</li> <li>・ 「満足度」について、嵐山の事業は県民から十分な評価を得ているが、目標値が高すぎであり80%を超える数値は十分な数値である。</li> <li>・ 中世の歴史考古学に視点を置いた専門博物館としての活動は好ましい。</li> <li>・ 「学校利用」について、体験事業の実施は博物館として今後も続けていくべきであり、評価も、事業の成果が上がる適正人数を目標にして達成率と満足度を指標にしてはどうか。</li> </ul>
-------------	---

2. 全館共通項目に係る評価

評価小委員の意見	
----------	--

必須項目チェックリスト

項目	共通	チェック内容	チェック欄	備考欄
	個別			
資料の集収	共通	① 資料の収集方針、収集計画が策定されているか	/	/
		② 収集方針、収集計画に基づき資料収集が行われているか	/	/
		③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	/	/
		④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	/	/
		⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	/	/
		⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	/	/
		⑦ 資料台帳が整備されているか	/	/
		⑧ 収集資料を遅滞なく台帳に登録しているか	/	/
		⑨ 収集資料ラベルが整備されているか	/	/
		⑩ 収集資料ラベルが遅滞なく添付されているか	/	/
		⑪ 資料の基本データが遅滞なく作成・管理されているか	/	/
		⑫ 収集資料の殺虫処理・クリーニングが適切に行われているか	/	/
	個別 (自然)	① 登録分野に基づいた標本化をしているか	/	/
		② 標本作製途中の資料の管理が適正に行われているか	/	/
資料の保存管理	共通	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	○	収蔵資料管理要項
		② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が職員に周知され、それに基づいて資料の保存管理が実施されているか	○	要項副本を職員へ配布
		③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修が行われているか	○	専門職員などから最新情報
		④ 資料の収蔵環境は適正に確保されているかたれているか	○	分散収蔵等で対応
		⑤ 資料の定期的な点検清掃作業が行われているか	○	IPM実施(1回/2ヶ月)
		⑥ 有害生物のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	○	月1回実施
		⑦ 資料の殺虫殺菌処理が適切に行われているか	○	忌避剤散布(9月)
		⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化などが行われているか	○	通年測定、記録
		⑨ 光量の管理が適切に行われているか	○	適性照明具の使用
		⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	○	年1回確認
		⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	○	IPM実施時に確認
		⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	○	修理修復計画の策定
		⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	○	承諾書等の定期的更新

項目	共通	チェック内容	チェック欄	備考欄
	個別			
資料の保存管理	共通	⑭ 資料のデータベースが整備されるとともに、情報が適宜更新されているか	○	資料目録(エクセルフォーマット)
		⑮ 収蔵庫の入退室管理簿が整備されるとともに、適正に管理されているか	○	収蔵資料管理要項による
		⑯ 収蔵資料の出納簿が整備されるとともに、適正に管理されているか	○	同上
		⑰ 収蔵庫の鍵が適正に管理されているか	○	同上
資料の活用	共通	① 収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	○	資料特別利用、資料館外貸出規定
		② 収蔵資料の活用に関する手続き等が公開されているか	○	申請書等のWEB公開
		③ 収蔵資料を展示に活用しているか	○	活用点数 37点
		④ 収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	○	貸出点数 17点
		⑤ 収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等)に適切に対応しているか	○	利用点数 124点
		⑥ 二次資料(写真等)の特別利用(原板使用等)に適切に対応しているか	○	利用点数 24点
		⑦ 資料のデータベースを公開しているか	○	公開中
		⑧ 公開したデータベースの情報が適宜更新されているか	×	今後実施予定
		⑨ 収蔵資料をホームページで公開しているか	○	収蔵資料公開ページ
		⑩ ホームページで公開している収蔵資料情報を適宜更新しているか	×	今後実施予定
常設展示	共通	① 展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	○	情報量、文字サイズの適正化、アイコンの活用
		② 展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	○	受付1人、及び土日・祝日の警備員の配置
		③ 展示情報が適宜修正・更新されているか	○	適宜実施
		④ 展示設備等が適宜点検されているか	○	開館・閉館時の巡回点検
		⑤ 展示ガイド等が作成されているか	○	盲谷館跡見て歩きガイド等の作成
		⑥ 解説リーフレット等が作成されているか	○	企画展等で作成
		⑦ 展示解説等が適宜実施されているか	○	来館者の要望により実施
		⑧ 観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	○	来館者アンケートの実施
		⑨ アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	○	アンケートの集計・分析
		⑩ 県民に対し展示情報を適宜発信しているか	○	館HP、イベントチラシの作成
学習支援事業	共通	① 事業情報が利用者に広く発信されているか	○	館HP、イベントチラシの作成
		② 多様な媒体による参加申し込みが方法が用意されているか	○	電話、電子申請、往復ハガキ
		③ 多様な参加者を想定したプログラムが用意されているか	○	歴史講座、体験教室、文化財めぐり等
		④ 参加者に対しボランティア等によるサポート体制が整備されているか	○	体験ボランティアの養成・配置

項目	共通	チェック内容	チェック欄	備考欄
	個別			
学習支援事業	共通	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全が配慮されているか	○	サポーターの配置
		⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	○	参加者アンケートの実施
		⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善がなされているか	○	アンケートの集計・分析
		⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	○	資料閲覧コーナー
		⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	○	インターンシップの受入
県民との連携・協働	共通	① ボランティア制度を導入しているか	○	サポータークラブ、ボランティアティーチャー、体験学習等
		② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	○	ボランティア設置要項
		③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	○	ボランティア設置要項
		④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	○	ボランティア定例会、研修会
		⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	○	HPやロビー展で活動紹介
		⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	○	埼玉城郭探訪会と共催し、講座を開催した。
		⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	○	スリーデーマーチや嵐山時代まつりに協力。
調査研究活動	共通	① 調査研究テーマを定めているか	○	館報等で明示
		② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	○	予算内でやりくり
		③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加しているか	○	学芸員研修体系による
		④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	○	中世城郭や石造物等の調査研究
		⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	○	研修への参加
		⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	○	中世城郭や石造物等の調査研究
		⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	○	適宜実施
		⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	○	シンポジウムを開催
		⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	○	講座等の開催
		⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	○	生きがい大学への講師派遣
施設・アメニティー	共通	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	○	予算要求資料の作成
		② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	○	テグス留め等
		③ 危機管理マニュアルを整備しているか	○	危機管理マニュアルの作成
		④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	○	防災点検、防災訓練実施
		⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	○	休憩コーナー
		⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	○	車椅子

項目	共通	チェック内容	チェック欄	備考欄
	個別			
施設・アメニティー	共通	⑦ バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	○	施設整備点検の実施
		⑧ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	○	障害者用2台
		⑨ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	○	手すり、スロープ、点字ブロック等の配備
		⑩ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	○	配色や文字サイズに配慮
		⑪ 館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	○	トイレ等誘導サインの英文化
		⑫ 利用実態に応じて開館時間を弾力的に運用しているか	○	夏季開館時間の延長
		⑬ 便益施設として利用者数に見合った施設・設備が確保または状況に応じて対応しているか	○	外トイレ、大型バス駐車場の整備
施設の利活	共通	① 施設利用のための要項、マニュアルが策定されているか	○	利用案内、危機管理マニュアル
		② 施設利用のための情報が公開されているか	○	HPで情報公開
		③ 施設を一般の利用に提供しているか	○	講座室
		④ 施設を学校団体等の利用に提供しているか	○	体験ホール、芝生広場等
		⑤ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	○	ロビー展の開催
		⑥ 入館料割引、スタンプラリーなど、他施設・機関との連携を図っているか	○	史跡の博物館年間共通観覧券、JAF優待サービスの導入
	個別(自然)	① 館所有の機器、機材を一般の利用に提供しているか		

独自項目チェックリスト

項目	独自	チェック内容	チェック欄	備考欄
企画 展事業 の実施	1	① 調査研究の成果を反映した展示となっているか	○	中世の始まりを 新視点で紹介。
		② メディアへの情報提供など広報活動は十分行っているか	○	県・市町村広報 誌・雑誌・インター ネットでの広報。
		③ 展示図録を作成し、一般に頒布しているか	○	企画展図録 の頒布。
		④ 展示に関連した講演会等が実施されているか	○	歴史講座・企画展 関連講演会の実 施
		⑤ 展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか	○	館内アンケートの 集計・分析を実 施。
		⑥ 外部団体の協力を得た展示となっているか	○	関連社寺、機 関の協力。
市町 村等 と連 携し た事 業	2	① 市町村等に対して連携事業の実施を働きかけているか	○	比企地区文化財 振興行議会との連 携・協力
		② 市町村との連携事業を実施しているか	○	巡回文化財展「比 企のタイムカプセ ル」の共催・実施
		③ 市町村以外の団体との連携事業を実施しているか	○	彩の国・文化の森 連絡協議会との連 携
		④ 地域の博物館等と連携して利用促進を図っているか	○	埼博連西部地域 の各館と連携
		⑤ 地域の文化財活用事業に協力しているか	○	巡回文化財展 「比企のタイムカプ セル」の共催・実 施。嵐山時代まつ りへの協力。
史 跡 と 公 園 の 保 存 と 活 用	3	① 史跡公園の保存に努力しているか	○	館跡の定期的巡 回、日常管理の実 施。
		② 史跡公園が地域に有効利用されているか	○	スリーデーマー チ、嵐山時代まつ りの会場。
		③ 菅谷館跡の史跡としての価値を県民に効果的に知らせているか	○	立体模型や比企 城館跡群の展示。 館跡ガイドツアー の実施
各 種 事 業 実 業 化 の 更 新 ・ 充	4	① 歴史講座等の事業の企画について工夫しているか	○	初心者向け講座 (初級歴史講座、 板碑入門)の企 画。
		② シンポジウムなど話題性のある講座・講演会の開催に努めているか	○	歴史講座・シンポ ジウムの企画、開 催。
		③ 菅谷館跡の活用を促進する事業を実施しているか	○	館跡ガイドツー アの実施。
		④ 県内各地の史跡を探訪する事業を実施しているか	○	文化財めぐりの開 催。
		⑤ 事業の更新について県民ニーズを把握しているか	○	事業参加者アン ケートを実施。